

自分のスタイルに合わせた「繋ぎ方」が、インターコム会話を広げる

SENA INTERCOM

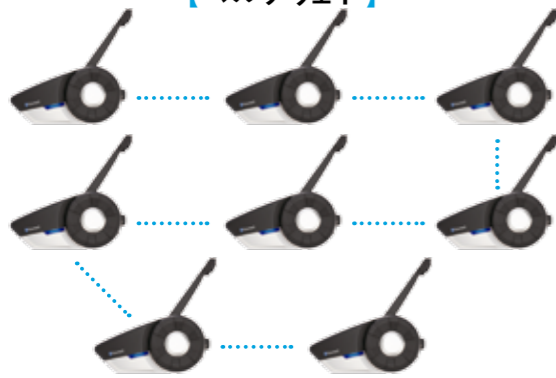
僕らの通話新時代

Bluetoothという無線規格を利用してライダーの声をやり取りしているセナのインターコム。ただ、この無線を使うがゆえに必要な煩わしい操作や、通信距離、通話人数の制限があった。そこに登場してきたのがメッシュネットワークやインターネットといった、新しい通話スタイルだ。

写真/後藤武久 文/八百山ゆすけ イラスト/田中斉

Bluetoothで繋がる

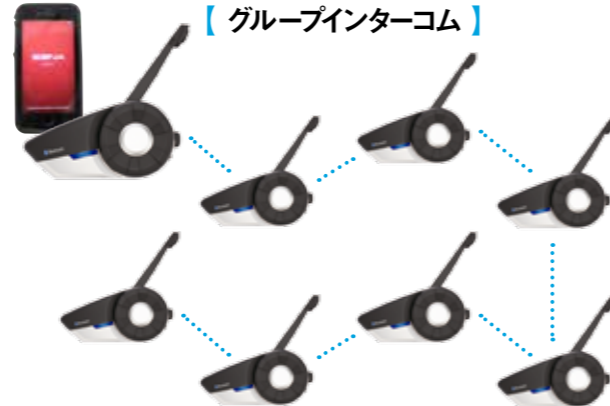
【マルチウェイ】



2台接続の2ウェイ、3台接続の3ウェイ、4台のインターコムを接続するマルチウェイ（10シリーズ）と、タンデムから最大8台（20Sのみ）まで、利用シーンに応じて使い分けられる、最もベーシックな接続方法。中継方式のため、接続順を考えてペアリングする必要がある。

※20Sのマルチウェイ接続例

【グループインターコム】



SENAアプリ

スマホアプリ「SENA Utility」を使うことで、10シリーズは最大4台、20Sなら最大8台のインターコムを、画面上でグループにまとめ、ワンタッチで接続ができる。アプリ上でグループリストを複数管理できるため、都度メンバーに合わせたグループを簡単に組むことが可能だ。

インターネットで繋がる



台数無制限



RideConnected

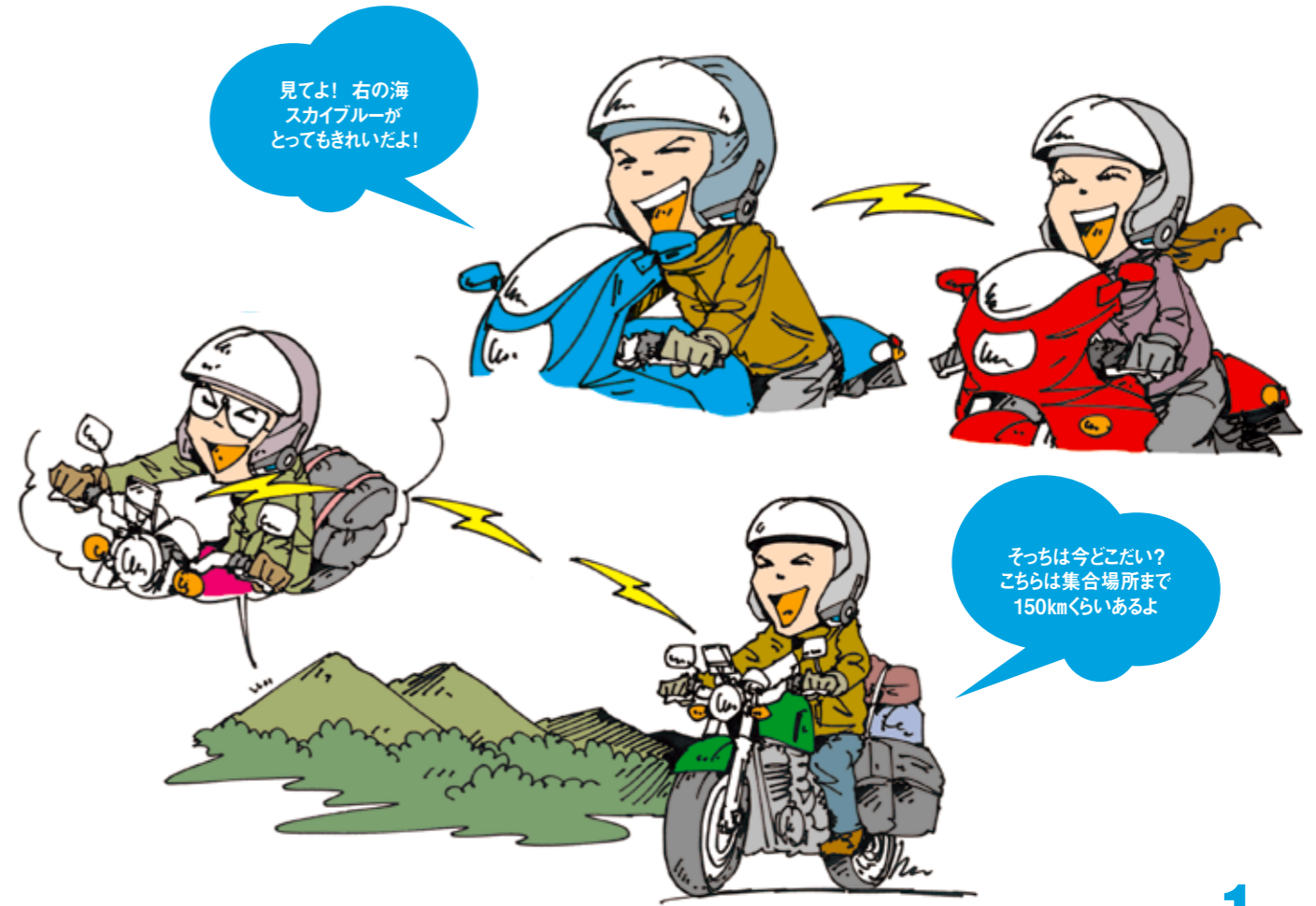
インターコムに接続したスマホの専用アプリ「RideConnected」を使って、ボイスチャットと同じ要領で会話ができる。無線ではなくインターネット経由で通信するため、通信距離や人数の制限がない。またベーシックモデルでも人数や距離の制限なく使えるのもメリットだ。

※接続機器組み合わせの一例

30Kはメッシュネットワークで繋がる



近日登場予定の30Kではセナ独自の「メッシュインターコム」技術を採用。中継方式と異なり網目状に接続するため、一人が抜けてもグループ通話が切れることがない。数kmの通信圏内で人数制限なく通話できるほか、プライベートモードなら5人の通話で約8kmの通信距離を実現の予定。



Pick Up: **SENA INTERCOM**

インターコム同士を繋

ぐ方法を選択できる!

Step: **1**

三つの通話スタイルで 今までの制約を解消

セナのインターコムは、通信距離200m〜2km、同時通話人数も2〜8人と、使い方に応じたチョイスができる。ただ、Bluetoothという無線規格を使っているために、その接続方法や通話できる距離、人数には制約がある。

まず、インターコムは同時に2台の相手しか接続できないため、4人以上で通話する場合にはインターコムを「数珠繋ぎ」に接続する必要があるのである。この操作が多くなるユーザーにとって意外と難しく、また、煩わしく感じるところだ。

また、セナの最上位機「20S」でも、同時に通話できる人数は最大で8人、通話可能な距離は最大2km。これを超えて、例えば「15人のマストワーキングで会話したい」とか「ツーリングの解散後も会話を続けたい」といったニーズには応えられない。そこでセナでは、今までのインターコムの常識を打ち破る通話スタイルを続々とリリースしている。まず、そのひとつが「グループインターコム」だ。従来の接続方法だとメンバーのインターコムを1つずつ順番にペアリングする必要があった。それを「セナ・ユーティリティ」とい

うスマホアプリで一括管理。メンバーのインターコムをアプリに登録するだけで、最大8台がワンタッチで接続できるようにした。これで「接続の煩わしさ」という枷から解放された。

また、インターコム同士が直接無線で通信するためにあった通信距離と同時接続人数の制限は、インターネットワークと専用通信アプリ「ライドコネクテッド」を利用することで解消。いわば「インターコム版LINE」のような仕組みで、インターネットで音声の中継することで、世界のどこにいても、そして何人でも同時に会話に参加できるようにした。

さらに、まもなく登場するニューモデル「30K」では、まったく新しい「メッシュネットワーク」という通信システムを採用。インターコム同士が無線で通信するものの、網目状のネットワークを作るため、今までのように数珠つなぎでメンバーの一人が抜けたらグループ全体の通話ができなくなったり、といったことがなくなる。「Bluetooth」や「インターネット」「メッシュネットワーク」と、まったく新しい通話スタイルを提供するセナのラインナップ。バイク用インターコムは、また新しい時代へと進化を遂げている。